



地域医療連携News

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。

地域医療連携News第178号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

- 個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- 地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
- 最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
- 働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- 優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

当院の初期臨床研修の理念は、崇高な信念と人格をもち、基本的な診療能力及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身に付けた自立した医師を育成することです。

初期臨床研修の方針

- ①患者中心の思考・行動をする姿勢を持つこと。
- ②救急医療やプライマリケアなどの診療能力を修得すること。
- ③他の医療スタッフと協調し、安全で質の高いチーム医療を提供すること。
- ④地域のかかりつけ医と連携し地域完結型の医療を学ぶ。
- ⑤症例を通じて、診断・治療の結果だけではなく、プロセスを学ぶ。

1.院長のご挨拶

中国労災病院NOW！

内視鏡上限2千件増やhinotori設置

「あれ？中国労災病院変わったね！」を目指して



院長 栗栖 薫
広島大学 名誉教授

皆さん、こんにちは。中国労災病院 院長の栗栖 薫（くりす かおる）です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

院長として皆さまに当院の地域における社会的、医療的立場と基本姿勢や取り組み等、まとめてご紹介させていただきます。

一昨年4月に赴任しましてから、あっという間におおよそ2年半が過ぎました。

この間、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行(pandemic)が当院の運営にも大きく影響してきました。

まさにコロナに明け、コロナに暮れた2年半でした。

当院も各感染の波に応じ、対応してきました。

今年に入って当院においてもクラスター発生を経験し、ほぼ2か月にわたり診療体制に大きく影響を受

けながらも、連携施設の皆さんや他の急性期の対応をしている医療機関などのご理解とご協力により何とか乗り切ってきました。

「災害モード」でコロナに対応

4年前の線状降水帯の影響により広く西日本各地に生じた集中豪雨災害の時には、BCP(Business Continuity Planning)という言葉が出て参りました。

BCPは、自然災害などの際、その組織が本来持っている機能の障害を最小限に抑え、活動を継続していく対策を意味します。

また、その後、レジリエンスresilienceという言葉が頻回に使用されています。

これは、復元力、回復力、強靱さ、などを意味します。
今年に入ってからCOVID-19 pandemicによるクラスター発生を経験して、ことさらこれらの言葉を強く意識し、対応することとなりました。

感染症も少数発生であれば、個々の対応ですみますが、pandemicになるとは「災害モード」と認識し、病院全体で対応しないといけません。

そのような意味で、pandemicは災害モードであると考えています。

“with CORONA”で社会・経済活動を行うにしても、感染症に対する対策の基本は、その感染症を「発生させない・拡げない」に尽きると思います。

そういう意味で、通常からできる基本的対策を皆で率先して行っています。

- 1) 手洗い・うがいを実践する
- 2) 正しくマスクを使用・着用する
- 3) 乾燥から喉・鼻を守る
- 4) 体調を崩さない、です。

引き続き、積極的に標準予防策を実践する方針としています。

では本題に入っていきます。

まずは、当院が置かれている地誌的、行政的、医療圏について説明致します。

人口は令和2年の確定値をもとに記載します。

呉市と江田島市で構成される広島県における二次医療圏（呉医療圏）の人口は呉市約213,000人、江田島市約22,000人、合計約235,000人です。

その中に公的病院が5つあります。

呉医療センター、呉共済病院、呉済生会病院、呉医師会病院、と当院です。

当院以外の4病院は、休山トンネルの西側、いわゆる市街地にあります。

休山トンネルより東側には当院しかありません。

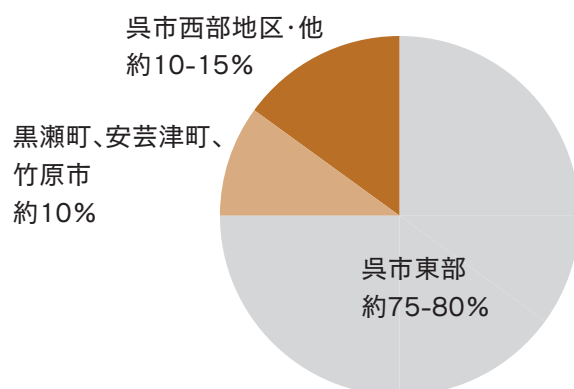
当院があるのはいわゆる呉市東部といわれ、阿賀、広、とびしま4島を中心とした島しょ部が含まれ、その人口の合計は約93,000人です。

中国労災病院の入院患者さん、外来通院患者さん、

救急受診患者さんは、呉市東部から約75-80%です。

後は、東広島市の南の地区である黒瀬町、安芸津町、更に公的病院のない竹原市からの患者さんが加わって、先ほどに10%加わり、85-90%が先ほどから説明している地域で占められています。

残りの10-15%が呉西部地区・他から受診されています。



それらの地域の背景人口は約15万人になります。

呉医療圏の中にある当院ではありますが、実際には、隣圏から行政区域を越え、救急患者も受け入れており、MC協議会では竹原市、東広島市の消防局とも風通しのよい関係が続いています。

東広島と呉を結ぶ東広島呉道路が開通後、山陽新幹線より南部の住民は、その自動車専用道路に入れば早ければ20分で当院に到着できます。

また、病院の敷地に接してJR新広島駅があり、JRを利用した通院に便利です。

また、中国労災病院を発着点、あるいは経由するバス路線は現在5路線あり、竹原市に隣接する安芸津町からも当院行のバスも運行され、生活圏が一体になっている様子が大変よく分かります。

日本病院会会長、長野県の相澤病院 相澤孝夫理事長が日常生活圏をもとに医療圏を設定することを提言されています。

まさに、我々の実際の担当医療圏が「日常生活圏」をもとにした医療圏に合致しています。

第8次、第9次の保健医療政策の策定にむけ、現状の見直しと、地域住民にできるだけ地域で完結できるような医療と福祉の均霑化を目指し、多方面のご理解とご支援を頂きながら進めていきたいと思っています。

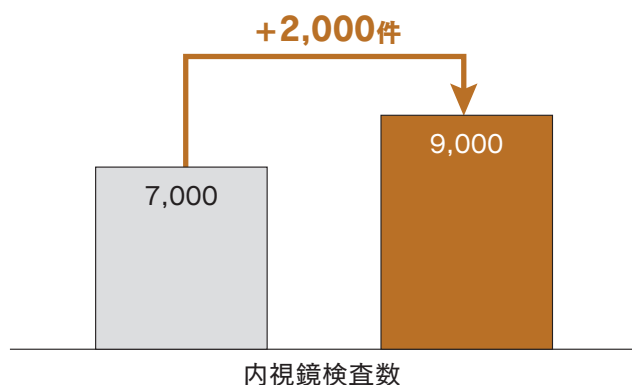
「支援・実践・推進」を基本行動へ

「内視鏡検査・治療センター」として3月末から診療を開始しました。

これまで年間約7,000件の内視鏡検査(上部下部を合わせて)を行っていますが、拡張後は、年間約9,000件まで対応可能となります。

また、検査中にしんどい思いをされる患者さんに、鎮静を行って検査後少しお休み頂ける対応も可能となりました。

長期間改修工事でご迷惑をおかけ致しましたが、その間ご協力ありがとうございました。



4月から「総合実習・研修センター」が発足し、その活動を始めました。

当院は医学・医療系の学生さんの実習や、国家試験に合格した研修医や医療職、あるいは救急救命士の研修など積極的に受け入れています。

今年度は初期臨床研修基幹施設として定員の8名、広島大学病院との「たすきがけコース」として定員の2名の計10名がフルマッチしました。

近年になかったことです。

結果的に2年次と合わせて17名で初期臨床研修を行うことになりました。

新たな生命が宿ったのと同じ感覚です。

病院あげて臨床研修医の育成に取り組んでいきます。

ロボット手術センター設置と遠隔医療

新しい診療として以下のことが挙げられます。

外科領域では侵襲度を低減して内視鏡手術が発展して参りました。

加えて、細かい操作をより確実に行うためにロボットが内視鏡手術を支援するシステムを導入しました。純国産のhinotori™です。

新たに「ロボット手術センター」を手術室内に設置しました。

現在、担当スタッフの研修を行っており、10月にプロクターの指導の下、まず前立腺がんの摘除術から開始予定です。

順に消化器外科系、婦人科系に対応を広げて参ります。

また、コロナ禍における診療として「遠隔診療」を積極的に取り入れる対応を行っています。

まずは皮切りに脳神経内科による頭痛やてんかん、パーキンソン症候群を対象にして、患者サポートセンターの中に専用ブースを設けて開始しました。

今後の中国労災病院

令和4(2022)年度の当院の抱負と変革をも含めてご紹介させて頂きました。

勿論、当院の診療の3本柱である、「救急医療、高度専門医療、周産期医療」には積極的に取り組み、更なる質の向上を目指して頑張ります。

当院を受診されます皆様、ご紹介して頂いております各連携施設の皆様、そして、当院にて実習・研修をされます皆様、「あれ!?!、中国労災病院変わったね!」とお感じになられたでしょうか?

勿論ある程度数の数による評価は基本的に重要と思いますが、人口構成からしても2025年を待たずして、総人口も、高齢者人口も減る現象の中で、患者満足度が高く、質の高い医療の提供を職員一丸となって推し進めて参ります。

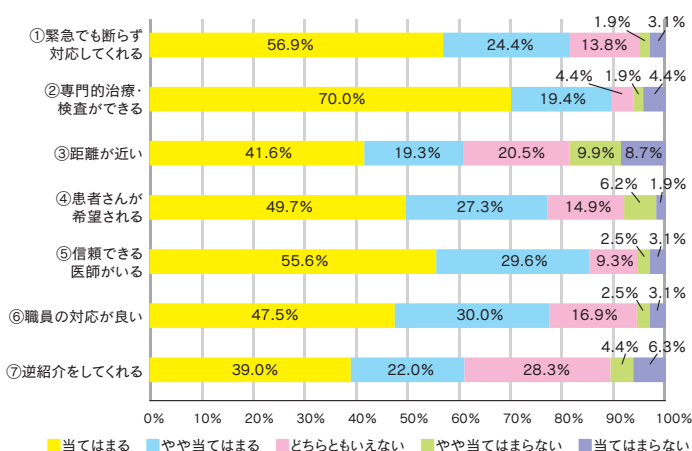
引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2.令和4年度 地域医療連携アンケート結果報告

先日は、お忙しい中地域医療連携にかかるアンケートにご協力いただきありがとうございました。

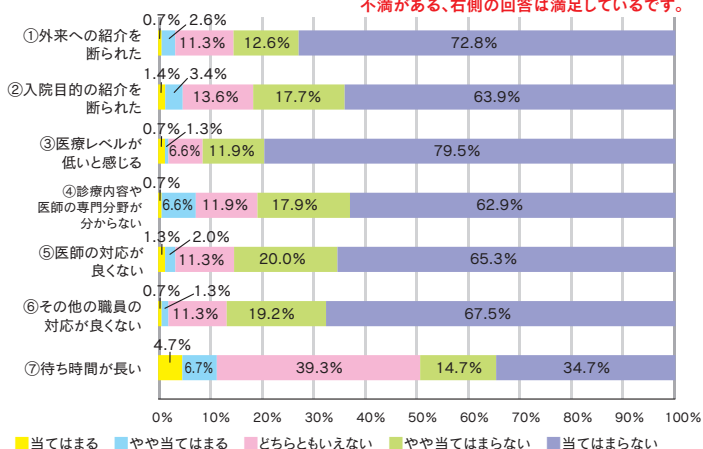
アンケート結果は下記のとおりです。（アンケート回収率 301医療機関 164医療機関 回答 回収率 54.5%）

①患者さんを紹介される際、どのような理由から当院を選んでいただいていますか。

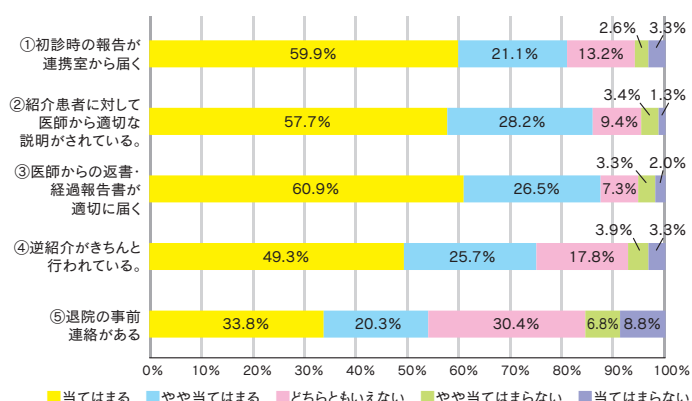


②患者さんを紹介される際、どのようなことが当院の問題点と感じられますか。

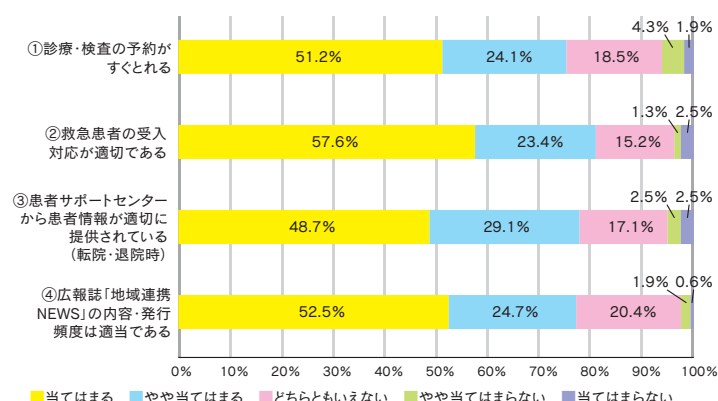
※こちらの設問だけ、回答の意味合いが他の設問と反対になっています。左側の回答は当院に対して不満がある、右側の回答は満足しているです。



③患者紹介後の当院の対応について、各項目について最も評価が近い数字を選んでください。



④患者サポートセンタースタッフの対応や患者サポートセンターの機能について、各項目について最も評価が近い数字を選んでください。



また他にもご意見がございましたので、回答いたします。

⑤紹介状の返事が一部されていないものがある。

（回答：申し訳ございません。引き続き患者サポートセンターで返書管理を行ってまいります。お問合せいただきましたら、早急に対応いたします。）

⑥HMカードの発行をお願いしたい。

（回答：現在HMネット参加中の医療機関から紹介、および当院から転院される患者さんについては、皆さん作成させていただいております。）

⑦ネット診療予約システム導入してほしい。

（回答：申し訳ございません。今後検討させていただきます。）

今後とも皆様からのご意見やお礼のお言葉を参考に、地域医療連携の充実に努めて参ります。ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

3.連携室からのお知らせ

令和4年4月の診療報酬改定で新設された二次性骨折予防継続管理料1を当院で算定した患者さんについては、当院退院月の翌月3日頃までを目途に、転院先の医療機関へ算定した旨をFAXにてご連絡させていただきます。

よろしくお願いいたします。



地域医療連携ニュース第178号

発行日 令和4年9月30日

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1 Tel.0823-74-0321 Fax.0823-74-6260

中国労災病院 患者サポートセンター <https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/>

